

平成25年度 公益財団法人栃木県体育協会事業報告書

基本方針

県民のスポーツ活動に対するニーズはますます増大し、かつ多様化しており、栃木県が策定した栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」の基本目標である“「安心」「成長」「環境」をともにつくる、元気度 日本一 栃木県”のため、スポーツを通じた人づくりとスポーツの振興を図り、「県民ひとり1スポーツ」の定着と「競技力の向上」に努め、「豊かなスポーツライフ」の実現を目指して、各種事業を推進した。

平成25年度は、加盟団体をはじめ関係機関・団体との緊密な連携のもと、健康マラソン大会・県民スポーツ大会の開催、スポーツ少年団の育成強化、総合型地域スポーツクラブの育成、スポーツ指導者の育成及びスポーツ国際交流等の諸事業を推進し、スポーツの普及と充実を図るとともに、国民体育大会等に参加する選手の育成・強化事業を推進した。

これらの諸事業を推進するための拠点施設として、今市青少年スポーツセンター・栃木県体育館の施設整備と適切な管理運営に努めた。

1 スポーツ振興事業

(1) 各種大会開催事業

ア 栃の葉国体記念第31回健康マラソン大会の開催

平成25年11月3日（日）、栃木県総合運動公園及び周辺道路をコースとして、栃の葉国体記念第31回健康マラソン大会が開催されました。

今年は、好天に恵まれ、予定どおり全種目が実施されました。前大会まで毎年2月に開催していましたが、今大会から11月第1日曜日の開催となりました。参加申し込み数（978名）の内、当日参加者数852名が練習の成果を発揮し、交流を深めました。

〔天候：曇 気温：16℃ 湿度：70%〕

イ 栃木県民スポーツ大会の開催

「県民ひとり1スポーツ」の推進をスローガンとして、広く県民へのスポーツ振興を図り、生涯にわたる健康や体力の保持増進を図るとともに、明朗にして連帯感あふれた活力ある地域づくりに寄与することを目的として開催し、地方大会並びに中央大会の参加選手・役員は26,519名が参加した。

①□地方大会（市町大会）

市町大会を中央大会の予選として、平成25年5月～8月にかけて開催し、19,166名が参加した。

② 中央大会実施競技

対抗競技21競技、オープン競技5競技を34会場で開催し、7,353名が参加した。

第1日目 平成25年10月20日（日） 水泳競技ほか20競技

第2日目 平成25年10月27日（日） 卓球競技ほか7競技

第3日目 平成25年11月 3日（日） ロードレース

③ 総合表彰式

平成25年12月5日（木）スポーツ会館（会議室）において、総合優勝、総合準優勝、総合第3位、スポーツ奨励賞市町の表彰を行った。

(2) スポーツ医科学事業

スポーツの多様化・高度化及び活性化に対応するため、スポーツ医・科学委員会が理事会の諮問に応じスポーツ医科学に関する調査・研究活動を実施するとともに、スポーツ医科学研修会等を開催し、適正なスポーツ指導と競技力の向上に努めた。

ア スポーツ医・科学委員会及び研究班員会の開催

- ① スポーツ医・科学委員会 3回（6月13日、9月26日、2月27日）
- ② 倫理審査会 1回（6月13日）
- ③ ワーキンググループ会議 3回（4月17日、9月5日、2月5日）
- ④ 健康管理調査研究班員会 2回（8月29日、2月20日）

イ 調査・研究活動

① 国体選手の健康管理調査

健康管理調査研究班員を中心に、国体に参加する選手を対象にメディカルチェックを実施し、日ごろのトレーニングや大会参加中の事故防止に万全を期すると同時に、県内の(公財)日本体育協会公認スポーツドクターとの連携を図った。

② 医科学分野をはじめとする総合支援事業

一人でも多くの豊かなスポーツライフを享受するため、医科学分野をはじめとした総合的な支援事業を行う。今年度はモデル支援団体（白鷗大学男子バスケットボール部、宇都宮白楊高校サッカー部）で実施した。

③ 国体選手を中心としたドーピング防止教育・啓発活動（健康管理調査研究班員会）

国体におけるドーピングコントロール実施に伴い、国体に参加する選手、監督及びコーチを対象に薬の乱用・誤用の認識を高めるため、研修会の開催や資料の配布等、健全なスポーツ活動を推進した。

(3) 顕彰事業

本県体育・スポーツの振興に貢献し、その功績顕著な者及びスポーツ界で優秀な成績を収めた者に対し、その栄誉を称え表彰した。〔平成26年2月19日（水） 県公館〕

ア スポーツ功労賞

地域職域等において、指導者等として永年にわたってスポーツの普及・発展に貢献した者、又は、加盟団体等の役員・指導者として振興・発展に貢献した者6名を表彰した。

イ スポーツ優良団体賞

地域社会・職場職域等において、永年にわたってスポーツの普及・振興に貢献した5団体を表彰した。

ウ スポーツ優秀選手賞

国際大会に出場及び日本選手権大会で優勝並びに国際大会で優秀な成績を残した選手14名を表彰した。

エ 船田スポーツ賞

若手指導者として、国体、国際大会等で優秀な成績を収めた選手を育成し、今後も活躍が期待できる1名を表彰した。

オ 国民体育大会優秀団体・監督・選手感謝状

国民体育大会において、優秀な成績を収めた22競技団体の監督等37名及び選手181名に感謝状を贈呈した。

カ 栃木県中学校スポーツ最優秀賞（星功賞）

心身ともに健康な中学生を対象に各種スポーツ大会において優秀な成績を収め、本県中学校スポーツの振興に貢献のあった個人又は団体を、（公財）栃木県体育協会及び栃木県中学校体育連盟の連名で選手27名を表彰した。

(4) スポーツ指導者育成事業

本県スポーツの一層の振興を図るため、多様化・高度化した県民のニーズに応え、適切な指導のできる地域スポーツ指導者を育成した。

ア スポーツ指導員・上級指導員養成講習会の開催

①□ 指導員養成講習

地域住民のスポーツに対するニーズに対応し、自発的スポーツクラブやスポーツ教室における競技別の基礎的・導入的なスポーツ技術の指導等にあたる公認の指導者の養成を目的とするスポーツ指導者養成講習会は、栃木県山岳連盟・ソフトボール協会・バレーボール協会・テニス協会と共催で101名が受講した。なお、共通科目（通信講座）には93名（水泳6名・テニス35名・バレーボール12名・バスケットボール1名・ソフトボール26名・山岳13名）が受講した。

② 上級指導員養成講習会

地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導や事業計画の立案などにおいて、クラブの中心的な役割を担うとともに、広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて、競技別指導にあたる者の養成を目的とする上級指導員養成講習会は、競技団体より実施希望がなく実施されなかった。

イ スポーツ指導者研修会の開催

（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者及び本県のスポーツ指導者に対し、資質の向上と指導活動の充実を図ることを目的として平成25年12月15日（日）に開催し、県総合教育センターにおいて287名の参加者を得て実施した。

ウ （公財）日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰

永年にわたり公認スポーツ指導者として、スポーツの指導育成及び組織化、競技力の向上、公認スポーツ指導者制度の発展その他国民スポーツの振興に貢献した者のうち、特に顕著な功績があった者を表彰し、その功に報いるとともに、今後における公認スポーツ指導者制度の一層の発展に資することを目的として実施されるものであり、平成25年度は1名が受賞した。

(5) 広報事業

本協会活動状況、主催事業等を積極的に広報するとともに、県内のスポーツ情報を収集し、広く県民に情報提供することに努め、県民の理解と協力を得るよう努めた。

ア 県体協だよりの発行

イ 体協アワー（栃木放送）による広報

ウ 栃木県体育館月報の発行

エ 今市青少年スポーツセンターパンフレットの発行

オ ホームページによる広報

カ その他新聞・放送等の媒体による広報

(6) スポーツ教室の開設

県民のスポーツに対する多様なニーズに応え、次のとおりスポーツ教室を開設した。

○ スポーツ教室種目（4月～2月） 8講座
・ ヨガ 1講座（通年）（参加者 延べ 1082名）

| | | | |
|-------------|-----|---------|----------------|
| ・ピラティス | 2講座 | (前期、夜間) | (参加者 延べ 635名) |
| ・ズンバ | 1講座 | (通年) | (参加者 延べ 2656名) |
| ・バレトン | 1講座 | (前期) | (参加者 延べ 507名) |
| ・キッズサマースクール | 2講座 | (前期) | (参加者 延べ 383名) |
| ・太極拳 | 1講座 | (前期) | (参加者 延べ 180名) |

○ 「とちぎの子ども元気塾」事業

将来を担う子ども達に、様々な運動遊びを行い、身体を動かす楽しさを体験させ、子ども達の発育・発達に応じたスポーツの基礎づくりを行った。

| | | |
|-------|--|--------|
| ・期間 | 通常スクール | 15回 |
| | 宿泊スクール | 1回 |
| ・種目 | トランポリン・クライミング・ハイキング・陸上競技・水泳・サッカー・エアロビクス・バドミントン・フットサル・スケート・タグラグビー・ホッケー・運動遊び・体力診断テスト | |
| ・参加人数 | 通常スクール | 延べ374名 |
| | 宿泊スクール | 延べ23名 |

(7) 総合型地域スポーツクラブ育成推進事業

日本スポーツ振興センターが行っている「スポーツ振興くじ助成事業」の総合型クラブ創設支援クラブである2クラブに対し、創設に向けた育成支援を実施した。また、県内の総合型クラブに対し、現地ヒアリングを行い、情報交換等を行った。クラブ未育成市町に対しては、啓発活動を行った。さらに、とちぎ広域スポーツセンターと連携し、栃木県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営の充実を図った。

ア クラブ設立・運営支援活動

- ① クラブアドバイザーを1名配置した。
- ② 創設支援クラブ現地ヒアリングを実施し、設立に向けての支援を行った。

イ 普及・啓発活動

クラブ未育成市町である那須烏山市・真岡市・芳賀町・茂木町に啓発活動を行い、真岡市が総合型の創設に向けて準備を始めた。

ウ 栃木県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営

- ① 栃木県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を3回開催し、クラブ相互の情報交換やクラブ運営の研修を行った。
- ② 県総合型クラブ交流会を2月に開催し、クラブ間の交流、連携を深めた。

2 スポーツ少年団育成事業

(1) 市町スポーツ少年団の育成充実

スポーツ活動を通じて、次代を担う青少年の健康な身体と心を育てるとともに、全国的な子どもの体力低下に歯止めをかけるべく、体力向上に寄与した。また、地域社会における豊かな人間関係や連帯感を醸成するため、市町のスポーツ少年団指導者・団員の登録並びに母集団の育成強化を促進し、指導者・リーダーの養成及びスポーツ少年団活動の充実を図った。

ア 市町におけるスポーツ少年団組織の強化

市町スポーツ少年団組織の整備と充実強化を図るため、スポーツ少年団委員総会・指導者協議会等を開催するとともに日本スポーツ少年団及び各都道府県スポーツ少年団と連携強化に努めた。

イ 指導者・リーダーの養成

スポーツ少年団活動の充実を図るため、指導者及びリーダーの養成と資質の向上を目的とする講習会・研修会を開催するとともに、市町事業への助成と中央事業への派遣を実施した。

① 講習会・研修会の開催

○ 栃木県スポーツ少年団指導者研修大会

市町においてスポーツ少年団の育成・指導にあたっている単位団指導者・市町事務担当者・指導者協議会委員・保護者を対象に、スポーツ少年団育成に係る諸問題の把握と指導者の資質向上を図ることを目的として開催した。なお、研修会に先立ち、日本スポーツ少年団表彰伝達式及び県スポーツ少年団表彰状授与式を行った。

〔平成26年2月2日（日） 県総合教育センターで実施143名が参加した〕

○ 栃木県スポーツ少年団認定員再研修会

再研修義務化に伴い本研修会が認定員資格保持のための義務対象研修となり、認定員の資質の向上並びに団活動の充実を図るため開催した。

〔平成25年11月24日（日） 今市青少年スポーツセンターで実施103名が参加した〕

○ ジュニア・リーダースクール

スポーツ少年団で中核となるリーダーの養成を図り、将来におけるシニアリーダー、指導者を育成することを目的として、宇都宮市、鹿沼市、那珂川町、佐野市で開催し、宇都宮市60名、鹿沼市43名、那珂川町1名、佐野市4名合計108名認定した。

○ リーダーズクラブ研修会

スポーツ少年団のリーダーとしての資質の向上、会員相互による情報の交換及び親睦を図ることを目的として、1泊2日の合宿研修を含め3回の研修会を開催した。

〔延べ34名参加 このうち1泊2日の合宿研修を1回実施した〕

② 認定員養成講習会事業への助成

市町においてスポーツ少年団の育成指導にあたる「スポーツ少年団認定員」の養成を目的として、「日本スポーツ少年団指導者制度」に基づくスポーツ少年団認定員養成講習会（都道府県講習会）を開催し、3コース444名が参加した。

③ 中央事業への派遣

○ 日本スポーツ少年団認定育成員研修会（関東ブロック）

スポーツ少年団認定育成員で、認定期間を4ヶ年経過する者に対し「日本スポーツ少年団指導者制度」に基づく更新認定研修会に、該当する育成員16名を派遣した。

○ シニア・リーダースクール

スポーツ少年団リーダーの資質向上を図るとともに、将来における指導者の養成を目的としたリーダースクール（平成25年8月8日（木）～12日（月）静岡県国立中央青年の家にて開催）に1名を派遣し、シニアリーダーとして認定された。

(2) 全国・関東スポーツ少年大会・スポーツ少年団競技別交流大会等への派遣事業

全国または関東大会等に代表者を派遣し、様々な交流活動により各参加者の資質の向上を図った。

ア 第51回全国スポーツ少年大会

期 日：平成25年7月26日（金）～ 7月29日（月）

会 場：大分県佐伯市

〔指導者1名、団員7名を派遣した〕

イ 全国スポーツ少年団競技別交流大会（軟式野球・バレーボール・剣道）

- ①□軟式野球 期 日：平成25年8月2日（金）～ 5日（月）
会 場：北海道札幌市
県代表：奈坪クラブ（宇都宮）
- ② バレーボール 期 日：平成26年3月27日（木）～30日（日）
会 場：和歌山県和歌山市
県代表：女子 横川東（宇都宮）
- ③ 剣 道 期 日：平成26年3月28日（金）～30日（日）
会 場：石川県金沢市
県代表：団体戦5名（那須塩原市スポーツ少年団）
個人戦2名（矢板市・栃木市スポーツ少年団）

ウ 平成25年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会

- 期 日：平成25年9月28日（土）～ 29日（日）
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター
〔指導者1名、リーダー1名を派遣した〕

エ 第32回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会

- 期 日：平成25年7月26日（金）～ 28日（日）
会 場：茨城県水戸市ほか
〔軟式野球・バレーボール・ミニバスケットボール・バドミントン・空手道の代表チームが参加した〕

オ 第44回関東ブロックスポーツ少年大会

- 期 日：平成25年8月22日（木）～ 24日（土）
会 場：神奈川県愛川町
〔指導者1名、団員5名を派遣した〕

カ 第12回関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

- 期 日：平成25年11月2日（土）～ 3日（日）
会 場：群馬県前橋市
〔指導者1名、リーダー3名を派遣した〕

(3) 県競技別交流大会・交歓会の開催

ア 競技別交流大会

軟式野球・バレーボール・ミニバスケットボール・卓球・剣道・柔道・バドミントン・空手道の8競技について、各関係競技団体の協力を得て交流大会を開催し3,318名の団員の参加があった。

イ 交歓会

市町の小学生団員の代表を対象とし、野外活動や文化活動による交流活動を通して、友情・自立・奉仕の精神を養い、地域における団活動の充実に資することを目的として開催した。

- 期 日：平成25年7月26日（金）～ 7月28日（日）
場 所：今市青少年スポーツセンター
〔指導者8名、団員17名の参加があった〕

(4) スポーツ少年団国際交流事業

スポーツ少年団の発展を目的に世界的視野を持った将来のリーダーを育成するため、(公財)日本体育協会が実施するスポーツ少年団リーダー等の海外派遣及び受入事業を実施した。

ア 第40回日独スポーツ少年団同時交流

派遣

期 日：平成25年7月31日（水）～ 8月18日（日）

派遣先：ドイツ連邦共和国

派遣者：団 員 檜山 慈 （那珂川町）

佐藤 雄斗 （鹿沼市）

受入

期 日：平成25年7月30日（火）～ 8月3日（土）

受入先：鹿沼市

(5) 顕彰事業

永年にわたりスポーツ少年団の発展に貢献し、特に顕著な功績のある単位スポーツ少年団並びに指導・育成に貢献し功績のあった登録指導者等を表彰した。

[登録指導者表彰 5名、指導者表彰 5名、単位団表彰 6団、育成母集団表彰 5団]

3 競技力向上事業

国民体育大会において常に上位の成績を狙えるよう競技力の向上に努めるとともに、国際大会や全国大会等で活躍できる選手の育成を図るため、競技団体及び関係機関・団体との緊密な連携のもと各種事業の推進を図った。

(1) 選手育成強化運営事業

ア 競技力向上委員会の開催

理事会の諮問に応じ、本県の競技力向上を図った。

イ スポーツ医・科学委員会研究班員会の開催

健康管理調査研究班員会：国民体育大会における選手の健康管理調査を実施し、大会参加中の事故防止に努めた。ドーピング防止教育について理解を深めるとともに検査実施に戸惑いなく対応し、競技に専念できるように支援した。

ウ 競技団体代表者会議の開催【平成25年4月25日（木）】

本協会の事業方針・計画・予算等を競技団体に周知し、競技力向上事業の円滑な運営と補助金の適正な執行を図った。

エ 選手強化連絡会議の開催

競技力向上事業を効果的に進めるため、スポーツ行政関係者が一堂に会し情報の共有化を図り、本県の競技力向上を図った。

(2) 指導者養成事業

高度化する競技スポーツに対応するため、指導者を対象とした研修会等を開催し資質の向上を図った。

ア 競技力向上研修会の開催 【期日：平成25年11月12日（火）】

競技団体の指導者等が一堂に会し発掘・育成・強化方策について情報交換を行い、国内における最先端の指導法や医科学知識等を習得することで、競技力の向上を図った。

イ 競技別ヒアリング

競技団体の代表者と当該年の国体（県予選～本大会）と強化育成事業の取り組みについて分析し、今後の選手育成強化体制に関する課題と対策を検討した。

(3) 選手育成強化補助事業

本県の安定した競技力を確保するため、各競技団体の活動方針に基づき行われる選手育成強化事業に対して支援した。

ア プロジェクトVロード事業

①□ 一貫指導グロウアップ事業

a 一貫指導推進事業

- ・初心者からトップアスリートまで、一貫した指導理念のもと育成強化体制を整備するために、各競技の特性に応じた一貫指導マニュアルを作成した。
- ・一貫指導マニュアルに基づいた育成強化事業を推進し、一貫指導体制の拡充を図った。

b ジュニア育成事業

- ・本県の幼児又は小学生から高校生までのジュニア層において、競技者の発掘・育成を目的とした事業を展開し、競技人口の拡大と少年種別の向上を図った。

② トップ指導者招聘事業

国内トップレベルの指導者を招聘し、本県指導者の資質向上と選手の育成強化を図った。

③ 重点競技強化事業

本県の核となる競技種別に強化費を補助し、競技力の向上と国民体育大会における成績の向上を図った。

④ 強化指定事業所・クラブ・大学・選手事業

<事業所・クラブ・大学>

国民体育大会や各種大会において活躍できる選手やチームが所属する事業所・クラブ・大学を指定し、本県競技スポーツの競技力向上及び普及・振興を図った。

<選手>

国民体育大会や各種大会において活躍できる優秀な選手を指定して、本県のトップ選手としての意識づけを高めるとともに、本県の競技力向上を図った。

イ 大会対策強化事業

① 基本強化事業

40競技団体の選手育成強化事業を支援し、競技団体内部の強化組織の充実や選手の育成強化及び指導者の育成を図った。

② 傷害保険加入

指導者並びに選手が競技に専念できるよう、スポーツ安全保険への加入を促進した。

ウ 中・高等学校強化奨励事業

① 中学校運動部強化奨励事業

中学校体育連盟主催の運動部活動振興事業に対し支援し、各種大会に参加する選手の育成強化を促進し、競技人口の拡大と競技力の向上を図った。

② 高等学校運動部強化奨励事業

高等学校体育連盟主催の運動部活動振興事業に対し支援し、各種大会に参加する選手の育成強化を促進し、競技人口の拡大と競技力向上を図った。

※ 参 照 国民体育大会

(1) 関東ブロック大会(神奈川県開催)

ア 実施競技(32競技)

- 本大会競技 32競技
- 冬季競技 0競技

※日光国体のため不参加

イ 中心会期

- 本大会 平成25年 8月23日(金)～ 25日(日)
- 冬季大会 平成25年12月20日(金)～ 22日(日)

(2) 国民体育大会

ア 第68回本大会(東京都)

平成25年 9月11日(水)～ 15日(日)
平成25年 9月28日(土)～10月8日(火)

イ 第69回冬季大会

- スケート・アイスホッケー競技会(栃木県日光市) 平成26年 1月28日(火)～ 2月2日(日)
- スキー競技会(山形県) 平成26年 2月21日(金)～ 24日(月)

4 今市青少年スポーツセンター事業

スポーツを通じて青少年の健全育成と地域スポーツの振興、また、生涯スポーツの実践拠点並びに競技スポーツの拠点として、施設の有効活用と適正な管理運営を図った。

(1) スポーツ推進事業

ア スポーツ教室の開設

〈種 目〉

- ・ピラティス 2講座 (春、秋：一般男女対象) (参加者 延べ470名)
- ・エアロビクス 2講座 (春、秋：一般男女対象) (参加者 延べ324名)
- ・骨盤リセット 2講座 (春、秋：一般男女対象) (参加者 延べ220名)
- ・ヨガ 2講座 (春、秋：一般男女対象) (参加者 延べ357名)
- ・スケート 2講座 (冬：小学1～3年生対象) (参加者 延べ295名)

イ トレーニングサポート(スケート) (参加者 延べ936名)

(2) 施設無料開放

県民の日記念協賛事業として、各種スポーツ教室の無料体験及び施設を一般に無料開放した。

開 放 日：平成25年6月16日(日) 参加者：523名

- ・各施設の無料開放
- ・各種スポーツ無料体験

栃木SCサッカー教室、チャレンジクライミング、
ホッケーセミナーwith グラクソ、エアロビクス、リラックソヨガ

(3) 施設整備事業

施設利用者の安全と利用人員の増加を図るため、施設の保守整備・環境整備を実施した。

(4) 日光市ホッケー場管理運営業務

日光市から委託を受け、日光市ホッケー場の管理及び運営業務を行った。

(5) 宿泊者・外来者の利用促進

平成25年度利用者数

- ・ 宿泊利用者 10,153名
- ・ 施設利用者 105,682名

5 栃木県体育館等管理運営事業

本県体育スポーツの中核施設として、施設の適正な管理運営を図るとともに、スポーツ教室、各種イベント等の事業を開催し、本県体育スポーツの振興を図った。

(1) 会議の開催

| | | |
|---------------------|-----------|-----------|
| ア 栃木県体育施設協会役員会（理事会） | 7月12日（金） | 本館大会議室 |
| イ 栃木県体育施設研究協議会 | 11月12日（火） | 霧降アイスアリーナ |
| ウ 専用利用調整会議 | 2月12日（水） | 武道館大・小会議室 |

(2) スポーツ教室の開設

県民のスポーツに対する多様なニーズに応え、次のとおりスポーツ教室を開設した。

| | | | | |
|-------------------|-----|---------|---------|--------|
| ○ スポーツ教室種目（4月～2月） | 8講座 | | | |
| ・ ヨガ | 1講座 | （通年） | （参加者 延べ | 1082名） |
| ・ ピラティス | 2講座 | （前期、夜間） | （参加者 延べ | 635名） |
| ・ ズンバ | 1講座 | （通年） | （参加者 延べ | 2656名） |
| ・ バレトン | 1講座 | （前期） | （参加者 延べ | 507名） |
| ・ キッズサマースクール | 2講座 | （前期） | （参加者 延べ | 383名） |
| ・ 太極拳 | 1講座 | （前期） | （参加者 延べ | 180名） |

(3) 県民の日記念協賛事業（施設無料開放）

6月15日（土） 栃木県体育館内全施設 参加者：803名

(4) 武道館協議会共催事業

- ア 栃木県宇都宮市地域社会（中学・高校）弓道指導者研修
8月17日（土）～18日（日） 栃木県体育館弓道場
- イ 栃木県宇都宮市地域社会少林寺拳法指導者研修会
11月30日（土）～12月1日（日） 栃木県武道館

(5) 貸館業務（本館・別館・武道館・弓道場・プール館）

| | | | |
|-------|------|----------|----------------------|
| 利用者延数 | 専用利用 | 140,562名 | |
| | 普通利用 | 56,729名 | （専用・普通利用合計 197,291名） |
| | その他 | 11,095名 | （会議室 10,292名） |
| | 合計 | 208,386名 | |

(6) 施設の点検整備

施設の利用者の安全と適正な管理運営を図るため、各施設の点検整備を行った。

- ア 本館男子シャワー室及び用具庫修繕工事
- イ 本館正面階段はりクッション修繕工事
- ウ 本館北側軒天修繕工事
- エ プール館薬注機交換工事
- オ プール館注入弁交換工事

- カ プール館蒸気ヒーター穴あき修繕工事
- キ プール館手摺修繕工事
- ク プール館高置水槽マンホール塗装修繕工事
- ケ プール館エアハンドリングユニット (No.1) モーター修繕工事
- コ プール館1階ロビー蒸気漏れ修繕工事
- サ プール館ロビー硝子修繕工事
- シ 本館南北外部階段タイル修繕工事
- ス 構内西側フェンス修理工事

6 スポーツ安全協会委託業務

公益財団法人スポーツ安全協会から委託を受ける、スポーツ傷害等の団体保険に関する業務を行った。

7 栃木県総合射撃場管理事業

本県射撃競技の中核施設として、射撃技術の向上のため管理運営してきたが、環境保全対策のため業務を閉鎖している。

8 協会運営

本協会の運営について、基本的事項を協議するとともに事業を遂行するため次のとおり、理事会等を開催した。

(1) 理事会 (4回)

(2) 評議員会 (3回)

(3) 専門委員会

ア 総務委員会 (3回)

イ スポーツ医・科学委員会 (3回)

ウ 競技力向上委員会 (3回)

(4) 賛助会

県民総スポーツの振興が果す社会的役割と、これを推進する本協会の諸事業について県民各層の理解を得るとともに、事業実施に必要な資金を調達し財政確立を期するため、企業団体、加盟団体、個人会員等に働きかけ、賛助会員の加入促進を図った。

[賛助会員248者、298口]

(5) 国際交流事業

ア 日韓スポーツ交流事業・地域交流推進事業にテニス競技の選手団16名・ボウリング競技の選手団21名を韓国から受け入れた。